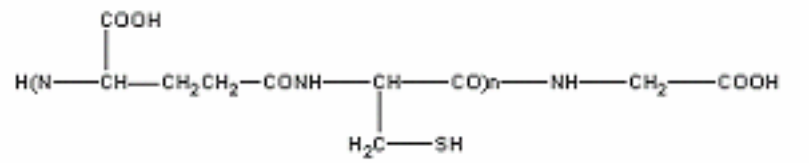【目的】腫瘍組織においては、その近辺に存在する正常組織との間に何らかの生化学的性質の違いがあると考えられる。そこで我々は、ヒト腎臓癌患者の摘出手術材料を用いて、構成タンパク質の相違について検討を行った。
【方法】ヒト腎臓の両組織から 25%ホモジネート液を調製し、遠心分離により得られた上清を可溶性画分とした。逆相 HPLC 分析にはμ Bondasphare 5μ C18 300Å を用いた。組織中の亜鉛含量は 5-Br-PAPS を用いて測定した。総メタロチオネイン含量は Cadmium-saturation assay により比較検討した。酵素活性は MCA 誘導体を用いて遊離する AMC の蛍光強度より求めた。
【結果および考察】逆相 HPLC 分析により両組織のクロマトを比較した結果、正常組織に認められる 4 本のピークが腫瘍組織では顕著に減少していることが明らかとなった。
　このことは、……。